

『コンビネーショントレーニングから救命へ』

	都道府県名	岡山県
	所 属	津山圏域消防組合 中央消防署
	氏 名	杉田 径礼
	職名・階級	署長補佐・消防司令
	指導救命士養成研修 受 講 時 期	平成29年度 指導救命士養成研修 第1期 修了

平成29年度指導救命士養成研修第1期を修了し、岡山県で規定する長期病院実習カリキュラム（延べ480時間）などを経て指導救命士として認定され、医療機関での生涯教育病院実習者指導・新規救命士病院実習者指導・オペ室での挿管実習者指導・当組合での各種救急訓練指導・OJT（指導救命士が4人目として同乗する救急出場）など活動の場を広げている。

平成16年から津山中央病院救命救急センターと実施しているドクターカー運用をはじめとした救急体制により、地域住民の安心・安全に寄与している。

【コンビネーショントレーニング】

コンビネーショントレーニングとは美作地域メディカルコントロール協議会（津山・美作・真庭3消防本部で構成「以下、美作地域MC協議会」という。）において、平成25年度から2年に1度の開催で、救急隊員の現場活動における観察・判断・処置、救急救命士の特定行為のスキルアップを目的としたシミュレーション訓練である。

実施隊は津山・美作・真庭の各消防本部2チームずつを選出し、救急隊6チームが参加し6想定（実施症例は当日抽選により決定）を実施。

第3回は指導救命士制度ができて初めて企画から運営、採点・フィードバックまでを指導救命士が担い実施した。

また新たな試みとして、会場に向かって右のスクリーンに隊員のリアルタイムな目線の画像を、会場に向かって左のスクリーンに患者のリアルタイムなバイタル等を映し出し、広い会場どこからでも隊の活動が身近に見えるような工夫も施した。

1 想定約20分・講評7分に設定し、終了ごとに美作地域MC協議会検証医師及び津山市医師会の医師、指導救命士から実施隊に改善点、問題点などを含めフィー

ドバックを行った。



コンビネーショントレーニング風景

【コンビネーショントレーニングによる効果】

過去2回に比べて内容も技術もすばらしく、3消防本部が切磋琢磨し、互いの救急技術を高め合っていた。岡山県北の救急体制を整えて行くべく、今後の活躍に期待が高まる。特定行為の種類も増え、複雑な現場になっているが、過去に比べて非常に洗練されていた。会場から見やすかった。などの意見を美作MC協議会検証医師及び津山市医師会の医師からいただいた。

また出場隊員からも、訓練を通じ技術・知識の向上になったのは言うまでも無いが、チームの形成につながったことが一番大きい。また出場してみたいなどの意見が出た。

このような意見からコンビネーショントレーニングを通じて、医師はもちろん、出場隊・見学者も非常に満足度の高い訓練となった。

【結語】

指導救命士制度ができてから初めてのコンビネーショントレーニング訓練であり、運営や進行を担う上でプレッシャーを感じながらではあったが、各医師から一定の評価をいただいたことで当初の目的である、救急隊員の現場活動における観察・判断・処置、救急救命士の特定行為スキルアップの一助となったものと認識している。訓練を通じ、顔の見える関係を構築することにも寄与できたものと感じる。

今後はドクターカー出場症例として医師と共に活動するシナリオなども企画していきたい。

救急現場においてまず最初に接触する医療人は救急救命士であり、その判断や処置によっては患者の予後を左右する。すぐさま緊急があるのか、掛かり付け医への要請がいいのかなど総合的な判断が必要であり、その判断は重要である。

医療資源には限りがある。地域で起こった患者を地域で助けるために、今後も医師と連携を取り、チーム医療の一員として3消防本部が切磋琢磨し救急技術の向上に努めていきたい。